



平成19年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成19年1月30日

上場会社名 株式会社キョーリン

(コード番号：4569 東証第一部)

(URL <http://www.kyorin-gr.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 荻原 郁夫

責任者役職・氏名 執行役員経理部長 伊藤 洋

TEL：(03) 3293-3420

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(内容)
1. 棚卸資産の实地棚卸の省略 : 帳簿棚卸によって算定しています。
2. 法人税等の計上基準 : 一部簡便的な方法を採用しています。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成19年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	56,961	—	5,814	—	6,101	—	3,483	—
18年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年3月期第3四半期	46	81	—	—
18年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—

- (注) 1. 18年3月期は、平成18年3月10日に杏林製薬(株)と株式交換を行いました。期末日を連結子会社の支配獲得日とみなしており、財務諸表のうち貸借対照表のみが連結対象であるため、記載しておりません。
また、平成19年3月期第1四半期より開示を行っているため平成18年3月期第3四半期は記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

キョーリングroupの中核である医薬品事業が属する国内医薬品業界の当第3四半期の状況は、平成18年4月に実施された大幅な薬価基準の引き下げにより、市場環境は一層厳しさを増しております。また医療制度改革、薬剤費抑制策の進展など先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況下、当社は平成 18 年度の経営方針として「キョーリンググループとしての新たな企業価値の創造」を掲げ、重点項目として①グループ企業の総合力発揮、②事業会社の確実な成長支援と更なる新規事業の獲得、③「キョーリン」ブランドのグループ全社への展開と浸透を掲げ、積極的な企業活動に取り組んでいます。

この結果、当第 3 四半期の業績（連結ベース）は

売上高	5 6 9 億 6 1 百万円	
経常利益	6 1 億 0 1 百万円	
当期純利益	3 4 億 8 3 百万円	となりました。

(参考資料：杏林製薬㈱の平成 18 年 3 月期 第 3 四半期の業績（連結ベース）)

売上高	5 5 8 億 3 6 百万円
経常利益	7 6 億 8 9 百万円
当期純利益	4 6 億 7 0 百万円

なお、当社は杏林製薬㈱との株式交換により平成 18 年 3 月 10 日付けでグループの持株会社となりました。従いまして、当第 3 四半期は持株会社制へ移行後、初めての第 3 四半期となりますので前年同期との比較は行っておりません。

販売の状況につきましては、以下のとおりであります。

①医薬品事業

国内新医薬品では、呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に重点化する F C 戦略を重点的に推進し、最大限の販売力発揮に努めました結果、4 3 5 億 3 3 百万円の売上を計上いたしました。主要製品では、ロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」が堅調に、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」が順調に推移しました。一方、大幅な薬価基準の引き下げ等により脳血管障害改善剤「ケタス」、活性型ビタミン D3 製剤「ロカルトロール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「アプレース」は前年を下回る実績となりました。

ジェネリック（後発医薬品）医薬品では、平成 17 年 5 月に子会社化した東洋ファルマー㈱を主体とするジェネリック医薬品の売上は、東洋ファルマー㈱の業績が 9 ヶ月間フルに寄与し、4 0 億 2 2 百万円となりました。

海外新医薬品では、広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先；米国アラガン社）」の現地売上が前年に引き続き堅調に推移しました。一方、広範囲合成抗菌剤「テクイン」の導出先である米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ社が、商業的な理由から米国をはじめとする諸外国での販売を平成 18 年 6 月より順次中止したことから、原末輸出及びロイヤリティ収入が減少し売上は 3 1 億 8 6 百万円となりました。

②ヘルスケア事業

一般用医薬品では、当第3四半期にノロウイルスの流行等により主要品である哺乳ビン・乳首消毒剤「ミルトン」が好調に推移すると共に東洋ファルマー(株)の一般用医薬品等の売上が貢献し、34億61百万円の売上となりました。化粧品他では、平成17年6月に100%子会社化し、連結対象子会社といたしましたドクタープログラム(株)の売上が順調に拡大し、17億46百万円となりヘルスケア事業として52億07百万円を計上いたしました。今後とも、ハイリスク・ハイリターンかつ長期スパンである創薬事業を支える医薬品事業に次ぐ事業として、ヘルスケア事業の体制構築を進め更なる収益拡大に努めます。

③販売促進・広告の企画制作

販売促進・広告の企画制作事業では、売上高7億81百万円の実績となりました。

キョーリングループの中核事業である新医薬品の研究開発におきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し、資源を集中的に投入いたしております。キョーリンスコットランド研究所ではアレルギー領域において共同研究を実施し、米国ActiVX社では代謝性疾患(Ⅱ型糖尿病)を中心にリード探索研究を行い、杏林製薬創薬研究所とともに日・米・欧3極での創薬ネットワークを構築し、グローバルな創薬体制による魅力ある製品の効率的な開発を推進することでグローバル創薬企業としてのポジショニングの確立を目指しております。国内での既申請品では、過活動膀胱治療剤「ウリトス」(平成16年10月申請)の早期承認を目指し、気管支喘息治療剤「キプレス」の剤形追加(細粒4mg、平成16年7月申請)、アレルギー性鼻炎(成人)の効能追加(平成17年8月申請)の承認取得を推進しております。この結果、当第3四半期の研究開発費は59億22百万円となりました。

なお、導出品及び導出展開の状況につきましては、メディシノバ社に導出しているKCA757において気管支喘息の第Ⅲ相臨床試験(P hⅢ)が開始されました。

利益面では、売上高は569億61百万円となり、売上原価231億28百万円(売上原価率40.6%)、販売費及び一般管理費280億19百万円を計上し、当第3四半期の営業利益は58億14百万円となりました。特別利益は3億35百万円、特別損失は4億71百万円を計上し、当第3四半期純利益は34億83百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	119,579	96,913	81.0	1,294 04
18年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	121,353	94,891	78.2	1,275 39

(注) 平成19年3月期第1四半期から開示を始めたため平成18年3月期第3四半期は記載して
おりません。
また、18年3月期の純資産の金額は同期の決算短信（連結）の株主資本の数値を記載して
おります。

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	1,416	△2,479	△2,513	10,025
18年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)18年3月期	—	—	—	—

(注) 18年3月期は、平成18年3月10日に杏林製薬(株)と株式交換を行いました。期末日を連結
子会社の支配獲得日とみなしており、財務諸表のうち貸借対照表のみが連結対象であるため、
記載していません。
また、平成19年3月期第1四半期より開示を行っているため平成18年3月期第3四半期は
記載していません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

資産では、主に受取手形及び売掛金が33億60百万円、棚卸資産が2億41百万円、投資有価
証券が15億39百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が36億41百万円、建物及び構
築物が7億40百万円、機械及び運搬具が14億92百万円それぞれ減少しました。前連結会計年
度末と比較して総資産は17億74百万円減少し、1,195億79百万円となりました。

負債では、主に支払手形及び買掛金が14億13百万円増加しましたが、未払法人税等が9億7
5百万円、長期借入金が1億94百万円、退職給付引当金が2億30百万円それぞれ減少しまし
た。前連結会計年度末と比較して負債合計は31億80百万円減少し、226億65百万円となりま
した。

純資産は、969億13百万円（前連結会計年度末の資本合計と比較して20億22百万円の増
加）となりました。

この結果、自己資本比率は81.0%となり、前連結会計年度末より2.8%増加いたしまし
た。

(キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、14億16百万円の収入であり、この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益59億65百万円、減価償却費34億46百万円、売上債権の増加33億61百万円、法人税等の支払額31億33百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、24億79百万円の支出で、主な内訳は投資有価証券の取得による支出48億10百万円、投資有価証券の売却(償還)による収入33億06百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、25億13百万円の支出で、これは主に配当金の支払2億28百万円によるものです。

この結果、当第3四半期の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末と比較して35億54百万円減少し、100億25百万円となりました。

3. 平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	76,700	6,700	3,600

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 48円07銭

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期までの業績は概ね計画通りに推移しており、平成18年11月7日(中間決算発表時)に公表した連結業績予想を変更していません。

注)本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

1. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当四半期末 (平成18年12月31日現在)		平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		増 減 金額	(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期末 (平成17年12月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
		%		%			%
(資産の部)							
I 流動資産							
現金及び預金	10,951		14,593		△ 3,641	10,626	
受取手形及び売掛金	30,113		26,752		3,360	30,091	
有価証券	111		111		0	111	
棚卸資産	14,009		13,767		241	14,757	
繰延税金資産	1,805		1,823		△ 18	1,278	
その他	2,817		2,724		93	1,896	
貸倒引当金	△ 69		△ 54		△ 15	△ 29	
流動資産合計	59,740	50.0	59,719	49.2	20	58,732	49.1
II 固定資産							
有形固定資産							
建物及び構築物	12,011		12,752		△ 740	9,352	
その他	7,686		8,611		△ 924	9,774	
有形固定資産合計	19,698	16.4	21,363	17.6	△ 1,665	19,126	16.0
無形固定資産							
商標権	1,412		2,035		△ 623	2,220	
のれん	1,767		2,078		△ 310	2,213	
その他	1,333		1,605		△ 272	1,585	
無形固定資産合計	4,513	3.8	5,720	4.7	△ 1,206	6,020	5.0
投資その他の資産							
投資有価証券	30,169		28,630		1,539	30,095	
繰延税金資産	3,850		4,254		△ 403	4,044	
その他	1,987		2,065		△ 77	2,131	
貸倒引当金	△ 380		△ 399		19	△ 474	
投資その他の資産合計	35,627	29.8	34,550	28.5	1,076	35,796	29.9
固定資産合計	59,839	50.0	61,634	50.8	△ 1,795	60,942	50.9
資産合計	119,579	100.0	121,353	100.0	△ 1,774	119,675	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
支払手形及び買掛金	8,003		6,590		1,413	8,469	
短期借入金	701		770		△ 69	749	
未払法人税等	1,465		2,440		△ 975	1,474	
賞与引当金	1,203		2,328		△ 1,125	1,197	
返品調整引当金	45		43		1	98	
固定資産解体引当金	335		335		—	—	
その他	4,795		5,859		△ 1,063	5,505	
流動負債合計	16,548	13.9	18,367	15.1	△ 1,818	17,495	14.6
II 固定負債							
社債	240		270		△ 30	270	
長期借入金	666		861		△ 194	948	
退職給付引当金	4,702		4,933		△ 230	4,888	
役員退職慰労引当金	283		489		△ 205	464	
その他	223		925		△ 701	959	
固定負債合計	6,116	5.1	7,478	6.2	△ 1,362	7,530	6.3
負債合計	22,665	19.0	25,845	21.3	△ 3,180	25,025	20.9

(単位:百万円)

科 目	当四半期末 (平成18年12月31日現在)		平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		増 減	(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期末 (平成17年12月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
				%	金額		%
(純資産の部)							
I 株主資本							
資本金	700	0.6	—	—	—	—	—
資本剰余金	4,752	4.0	—	—	—	—	—
利益剰余金	90,205	75.4	—	—	—	—	—
自己株式	△ 72	△ 0.1	—	—	—	—	—
株主資本計	95,585	79.9	—	—	—	—	—
II 評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金	1,281	1.1	—	—	—	—	—
為替換算調整勘定	46	0.0	—	—	—	—	—
評価・換算差額等計	1,328	1.1	—	—	—	—	—
III 少数株主持分	—	—	—	—	—	—	—
純資産合計	96,913	81.0	—	—	—	—	—
負債及び純資産合計	119,579	100.0	—	—	—	—	—
(少数株主持分)							
少数株主持分	—	—	616	0.5	—	619	0.5
(資本の部)							
I 資本金	—	—	700	0.6	—	4,317	3.6
II 資本剰余金	—	—	4,761	3.9	—	949	0.8
III 利益剰余金	—	—	88,256	72.7	—	87,702	73.3
IV その他有価証券評価差額金	—	—	1,181	1.0	—	1,050	0.9
V 為替換算調整勘定	—	—	42	0.0	—	22	0.0
VI 自己株式	—	—	△ 50	△ 0.0	—	△ 11	△ 0.0
資本合計	—	—	94,891	78.2	—	94,029	78.6
負債、少数株主持分及び資本合計	—	—	121,353	100.0	—	119,675	100.0

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当四半期 自 平成18年4月 1日 至 平成18年12月31日		(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期 自 平成17年4月 1日 至 平成17年12月31日		(参考:杏林製薬(株)連結) 平成18年3月期 自 平成17年4月 1日 至 平成18年3月31日	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
I 売上高	56,961	100.0	55,836	100.0	74,054	100.0
II 売上原価	23,128	40.6	19,617	35.1	26,515	35.8
売上総利益	33,833	59.4	36,218	64.9	47,538	64.2
III 販売費及び一般管理費	28,019	49.2	29,089	52.1	38,549	52.1
営業利益	5,814	10.2	7,129	12.8	8,989	12.1
IV 営業外収益	729	1.3	703	1.3	863	1.2
V 営業外費用	442	0.8	143	0.3	387	0.5
経常利益	6,101	10.7	7,689	13.8	9,465	12.8
VI 特別利益	335	0.6	98	0.1	260	0.3
VII 特別損失	471	0.8	77	0.1	1,259	1.7
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,965	10.5	7,710	13.8	8,466	11.4
法人税等	2,494	4.4	2,996	5.3	3,192	4.3
少数株主損益	△ 13	△0.0	43	0.1	44	0.0
四半期(当期)純利益	3,483	6.1	4,670	8.4	5,228	7.1

3. (要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	(参考:杏林製薬(株)連結) 前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	(参考:杏林製薬(株)連結) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,965	7,710	8,466
減価償却費	3,446	2,629	3,646
のれん償却額	169	78	134
売上債権の増加額(△)・減少額	△ 3,361	△ 2,668	672
棚卸資産の増加額(△)・減少額	△ 242	△ 3,110	△ 2,121
仕入債務の増加額・減少額(△)	1,413	832	△ 1,047
その他	△ 3,028	△ 1,335	△ 6
小 計	4,361	4,136	9,744
法人税等の支払額	△ 3,133	△ 95	△ 152
その他	188	984	957
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,416	5,024	10,548
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の売却(償還)による収入	—	399	399
有形固定資産の取得による支出	△ 2,530	△ 920	△ 4,010
国庫補助金等受入による収入	1,500	—	—
投資有価証券の取得による支出	△ 4,810	△ 3,242	△ 3,783
投資有価証券の売却(償還)による収入	3,306	2,730	4,338
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入・支出(△)	—	△ 3,170	△ 3,170
子会社株式の取得による収入・支出(△)	—	△ 589	△ 589
その他	54	△ 483	△ 269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,479	△ 5,276	△ 7,085
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得・売却による支出(△)・収入	△ 25	△ 43	△ 77
配当金の支払額	△ 2,228	△ 1,365	△ 1,411
その他	△ 258	△ 97	△ 163
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,513	△ 1,507	△ 1,653
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	22	55	81
V 現金及び現金同等物の増加額・減少額(△)	△ 3,554	△ 1,703	1,891
VI 現金及び現金同等物の期首残高	13,580	11,361	11,361
VII 現金及び現金同等物の期末残高	10,025	9,658	13,252